

副本

平成24年(ワ)第3671号, 平成25年(ワ)第3946号, 平成27年(ワ)第287号, 平成28年(ワ)第79号, 平成29年(ワ)第408号, 平成30年(ワ)第878号

大飯原子力発電所運転差止等請求事件

原告 竹本修三 外3313名

被告 関西電力株式会社 外1名

証拠説明書

(丙306~315号証)

令和元年7月25日

京都地方裁判所第6民事部合議はB係 御中

被告訴訟代理人 弁護士 小 原 正 敏



弁護士 田 中 宏



弁護士 西 出 智 幸



弁護士 神 原 浩



弁護士 原 井 大 介



弁護士 森 拓 也



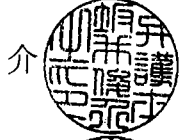
弁護士 辰 田



弁護士 畑 井 雅



弁護士 坂 井 俊



弁護士 山 内 喜



弁護士 谷 健 太 郎



弁護士 酒 見 康



弁護士 中 室



弁護士 持 田 陽



号証	標 目 (原本・写しの別)		作成年月日	作成者	立 証 趣 旨
丙 306	大飯発電所地盤 (敷地の地質・地 質構造)について (抜粋)	写し	H27.3.13	被告関西電力 株式会社	<p>被告関西電力株式会社が、大飯発電所3,4号機(以下、「本件発電所」という。)敷地における地層の傾斜、断層及び褶曲構造等の地質構造を評価するために、既往文献の調査、既存データの収集・分析、地表地質調査、ボーリング調査及び試掘坑調査等の各種地質調査を行い、作成した本件発電所敷地内の地質断面図の内容</p> <p>なお、本資料は、原子力規制委員会の「原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合」において、被告関西電力株式会社が説明に用いた資料である。</p>
丙 307	原子力発電所耐震 設計技術指針 (JEAG4601-1987) (抜粋)	写し	S62.8.15	社団法人日本 電気協会 電 気技術基準調 査委員会	<p>原子力発電所耐震設計技術指針(JEAG4601-1987)において、火成岩は、その形成過程から堅硬であることが自明であるため硬岩に分類されるが、堆積岩は、古生層や中生層等の古い時代の地層で形成されたものは硬岩に分類され、鮮新統や中新統等の比較的新しい時代の地層で形成されたものは軟岩に分類されていること等</p> <p>なお、丙307号証は、丙216号証とは別の箇所を抜粋したものである。また、社団法人日本電気協会は当時の名称であり、現在は一般社団法人日本電気協会に移行している。</p>

丙 308	物理探査ハンドブック 増補改訂版 (抜粋)	写し	H28. 6. 1	公益社団法人 物理探査学会	輝緑岩, 細粒石英閃緑岩及び斑れい岩の一般的な弾性波速度は, 他の岩石 (特に軟岩に分類される新第三紀の堆積岩) に比して速いものであること
丙 309	柏崎刈羽原子力発電所6号及び7号炉 敷地近傍の地質・地質構造について (抜粋)	写し	H29. 8	東京電力ホールディングス株式会社	柏崎刈羽原子力発電所の地下構造について, 反射法地震探査の結果を見ると, 非常に大きく畝っており, 顕著な褶曲構造を呈している部分が存在すること等
丙 310	原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合 第21回 議事録 (平成25年9月18日 (水)) (抜粋)	写し	—	原子力規制委員会	被告関西電力株式会社は, 原告らが指摘する細かな数値のばらつきの存在等を含めて, 調査結果を丁寧に示しながら新規制基準への適合性に係る審査会合で被告関西電力株式会社の評価について説明し, 原子力規制委員会も, 被告関西電力株式会社の評価を適切であると認めていること等
丙 311	原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合 第89回 議事録 (平成26年3月5日 (水)) (抜粋)	写し	—	原子力規制委員会	
丙 312	原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合 第92回 議事録 (平成26年3月12日 (水)) (抜粋)	写し	—	原子力規制委員会	
丙 313	原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合 第5回 議事録 (平成25年7月31日 (水)) (抜粋)	写し	—	原子力規制委員会	被告関西電力株式会社は, 主に敷地深部の地下構造を把握する目的で微動アレイ観測を実施したことについて, 高浜発電所に関する新規制基準への適合性に係る審査会合において, 原子力規制委員会に明確に説明していること

丙 314	地震観測記録に基づく地震動の減衰特性(その3)－硬質地盤における減衰メカニズムの解明－	写し	H19.12	佐藤浩章 東貞成 芝良昭 佐藤清隆 高橋裕幸 敦賀隆史	本件発電所敷地と同等の速度構造の減衰定数hの下限值が0.02(2%)とされていること
丙 315	広帯域サイト増幅特性評価のための深部地盤の不均質性のモデル化に関する研究－新潟平野を対象とした基礎的検討－	写し	H22.2	佐藤浩章 山中浩明	不均質性を特徴付けるパラメータの1つである標準偏差エプシロン ε は0.1～0.125程度で、減衰定数の付加量 h^{add} は0.008～0.01程度(0.8～1%程度)が目安とされていること